



伝統技法による矢の製作

なが さわ まさ じ ろう
永 澤 政 治 郎

(86歳)

住所

南秋田郡五城目町

明治44年、先祖代々伊達藩に仕えた御矢師永澤儀平の四男として誕生し、大正14年に神奈川県御矢師安田清五郎に師事して以来、現在に至る70有余年の長きにわたり、研究研磨を重ねるとともに、日本古来の高度な伝統技法を忠実に保持し、矢の生産に励んでいる。

現在、伝統技法を用いる御矢師は、全国でも10家に満たなく、東北北海道では永澤家のみである。

その高度で卓越した技術による作品は、正射必中の醍醐味を堪能させる正確性を持つことから、全国の弓道愛好者に周知され、特に高段者からは、秋田五城目の名品「則竹の矢」として、絶賛ともいふべき高い評価を得て珍重されている。

また、技術の承継を図るため、後継者の育成にも尽力している。



俳句の普及、発展

おか だ てつ た ろう
岡 田 哲 太 郎

(84歳)

住所

湯沢市

昭和5年に、石井露月の高弟柴田紫陽花の指導を受けて俳句を始め、正岡子規の主唱した日本派俳句の東北地方における拠点として知られる俳誌「俳星」の会員となり、平成7年6月号で通巻900号を迎えた同誌の第8代主幹を平成5年から務めるとともに、中央誌「獺祭」の主要同人並びに俳人協会秋田県支部長として、県内外の俳人から尊敬を集め、俳句の普及、発展に貢献している。

また、書道、篆刻における技能も高く評価されており、秋田県篆刻々字協会顧問として活躍するとともに、昭和56年には中国において、昭和62年と平成4年には湯沢市において、篆刻の個展を開催した。

こうした俳句、書道、篆刻にわたる卓越した指導力により、後進の育成にも尽力しており、俳壇はもとより広く文化活動の各分野において高い評価を得ている。



スポーツの振興

しよ う じ
東 海 林

たかし
建

(76歳)

住所

雄勝郡雄勝町

永年にわたり、体育指導員として地域及び県内のスポーツ振興に励んでおり、昭和60年から現在まで、秋田県体育指導委員連絡協議会副会長を務めている。

また、自らスキー競技の純ジャンプや複合の選手として県民体育大会や国民体育大会等で活躍した。

昭和41年から通算9年間にわたり秋田県スキー連盟副会長として、昭和63年から現在までは秋田県スキー連盟会長として、「スキー王国秋田」復活と飛躍に全力を注いでいる。

特に、(財)日本体育協会や出場選手等から絶賛を博した第52回国民体育大会冬季大会スキー競技会(あきた鹿角国体)において、競技運営や選手強化の陣頭指揮を取り、大会を大成功に導いた功績は大きいものがある。



産業、経済の発展

しん とう しょう の すけ
進 藤 正之助

(73歳)

住所

秋田市

昭和46年に秋田商工会議所議員に選任されて以来9期26年にわたり、同会議所の運営と地域の発展のために尽力しており、現在は、副会頭として会議所の中核となつて会議所運営全般について参画し、地域経済の発展に大きく貢献している。

また、秋田卸センター理事長として、地域中小卸売業活性化推進事業や共同配送事業を行うなど流通機能の強化を図るとともに、秋田貿易振興会理事長としては、仙台ジェトロとの共催による海外へのミッション派遣や海外からのミッション受入れ事業などを推進し、ジェトロ秋田貿易情報センターの平成6年度開所の実現に貢献した。

更に、本県ハンドボール競技の向上や交通安全の普及にも尽力している。



坂之下番楽の保存、伝承

もて ぎ こう いち ろう
茂 木 幸 一 郎

(70歳)

住所

由利郡矢島町

「坂之下番楽」は、寛永年間に京都醍醐の三宝院に属する修験者本海行人によって伝えられた。

19歳で講中に入り、青年時代（33歳頃まで）は舞方として、その後は囃方（太鼓）として活躍し、40歳代からは後輩の指導に当たるとともに、昭和42年からは会計、昭和46年からは代表となって、昭和49年の秋田県の無形民俗文化財の指定に尽力した。

また、昭和49年には少年団を結成し、昭和62年には秋田県の無形文化財後継者育成事業の指導を受けて発表会を行い、山形県真室川町の少年番楽との交流を行うなど、後継者育成に力を入れており、現在でも19演目を伝承し、番楽の保存に大きく貢献している。



成人病の予防、治療の確立

くま がい ただ ゆき
熊 谷 正 之

(70歳)

住所
秋田市

永年にわたって成人病の予防、治療の確立に指導的な役割を果たし、県民の健康の向上に貢献した。特に、循環器疾患の予防については、県成人病予防協会の草創期から今日まで検診事業の中心となって活躍しており、心電図判定基準などの検診判定基準を確立し、集団検診の受診率と判定技術の向上に寄与した。

また、県民皆検診の中心になっている総合保健センターの設立にも参画した。

更に、心疾患、消化器疾患に対する高次の救急医療の整備が遅れていたなかで、成人病医療センターの設立に参画し、昭和59年の開設以来今日まで、センター長として自ら臨床に携わるとともに、心疾患の第三次救急救命医療の中心となる医療施設として発展させ、県民医療の確保に大きな成果を挙げている。

このほか、県臨床内科医会長として医学の向上と後進の育成に当たるとともに、県医師会副会長などとして保健医療施策の円滑な推進に貢献してきた。



謡曲、能楽の普及、発展

故 池 田 竹 二 郎

(71歳)

住所
秋田市

昭和28年に県庁観世流謡曲同好会を結成し、昭和44年から63年まで会長を務める傍ら、昭和55年には能楽囃子連盟を設立し、平成6年まで会長を務めたほか、昭和63年に金春流太鼓の会「秋田花酔会」を創立して会長となり、自宅を開放して定例練習場とするなど、今日の隆盛の基礎を作った。

また、平成元年から2年まで県謡曲連盟会長を務め、秋田市制100年記念薪能公演を企画し、その実現、成功に尽力したほか、平成3年から9年までは、同連盟顧問として、秋田市民俗芸能伝承館の建設に尽力し、この能楽舞台などを活用し県内謡曲三流をまとめ、広く謡曲の普及発展に貢献した。

更に、平成9年5月には、秋田新幹線開業記念、秋田市中核都市移行記念の「秋田市薪能公演」を企画し実行委員長となり、本県の能楽の普及、発展に貢献した。